



私、来月の共通テスト受けます！



来年1月18、19日に実施される「大学入学共通テスト」を受験しようと思っています。決して来年度から大学生になろうということではありません。（←これがその受験票です）

私は甲府西高校に赴任してきてから受験生と一緒に共通テスト（センター試験）を受験してきました。これまで受験してきた受験票を並べてみたら平成19年を最初に令和6年（平成20年だけ未受験）までで17枚を数えました。それに自分が高校3年時に受験した平成4年と、今回の令和7年を合わせると19回目の受験となります。

センター試験を受験したきっかけは、西高に異動した当時、私は教員生活が10年経ち、「教壇に立って生徒の前で偉そうに数学を教えているけど、大学入試本番で本当に自分は解けるのか？」と思ったことがありました。それに加えて「受験生の気持ちと緊張感をいつまでも忘れたくない」ということでした。

受験型は「2教科以下」という受験方法があったので、数学と合わせて国語や化学、最近では英語を受験していましたが、前回は3年次生と一緒に全科目にチャレンジしました。



↑ H19～R6 の受験票です ↓

受験会場はその年によって違いますが、山梨大学や山梨県立大学、山梨学院大学でしたが、人事交流で長野県の教員をやっていた2年間は信州大学でも受験をしました。受験型が異なるので、西高生とはほとんど教室が一緒にはなりませんでしたが、試験の休み時間に受験会場で会う西高生には「ホントに受験してるんですね！」なんて声をかけられたこともありました。また、受験会場では他校の受験生にジロジロ見られることはもはや普通で、当時西高で担当していた生徒には「お金払ってまで受験するなんてキモイ…」なんて言われたこともありましたが、今回も懲りずに受験します！1月の受験の様子は次号で報告します！

保護者の皆様へ 今年一年ありがとうございました。来年も宜しくお願ひいたします。

4月の入学以降、保護者皆様には本校の教育活動にご理解とご協力をいただきまして、ありがとうございました。冬休みは何かと家族行事も多いですが、出来るだけ規則正しい生活リズムを保ち、メリハリのある環境作りにご理解とご協力をお願いします。また、来月1月21日(火)から2回目の三者懇談が行われます。これまでのお子様の学校生活の様子や今後の進路等についての情報を交換し、新2年次生に向けて今後の指導についての共通理解を図りたいと思いますので、ご参加をお願いします。

1年次主任 平岩岳実

～1月行事予定～

日	曜日	A/B	予 定	日	曜日	A/B	予 定
1	水		元日	16	木	B	春季原付免許取得集会
2	木			17	金	B	英語検定
3	金			18	土		
4	土			19	日		
5	日			20	月	A	きずなの日
6	月		冬季休業終了	21	火	A	三者懇談 短縮45分授業
7	火	A	休業明け集会 LHR 2校時～平常授業	22	水	A	三者懇談 短縮45分授業
8	水	A	放送設備点検(16:00～)	23	木	B	三者懇談 短縮45分授業
9	木	A		24	金	B	三者懇談 短縮45分授業
10	金	A		25	土		土曜講座(1, 2年共通講座)
11	土		ベネッセ総合学力テスト	26	日		
12	日			27	月	B	三者懇談 短縮45分授業
13	月		成人の日	28	火	B	三者懇談 短縮45分授業
14	火	B	冬季バイク通学許可式	29	水	B	大掃除・前期募集選抜検査会場準備 短縮45分授業
15	水	B	マナーアップ運動	30	木		家庭学習日(前期募集検査)
				31	金		家庭学習日(前期募集検査)

◎先生方からの寄稿 今月は3組の担任 依田裕子先生、副担任 保坂昂佑先生です。

最後まで読んでね 依田 裕子

2024年が終わろうとしています。皆さんにとって今年はどのような年でしたか。高校入学後、講演会や授業などを通して自分の人生や将来について考える機会があったと思います。どの人も自分の人生を自分で設計し、歩いていくわけですが、これから選択・決断しなければならないことが増えます。的確なアドバイスをくれる人もいますが、進むべき道を決めてはくれません。予測不能な時代を表すVUCA（ブーカ）という言葉があります。



Volatility（変動性・不安定さ）、Uncertainty（不確実性・不確定さ）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性・不明確さ）の頭文字をとった造語です。このVUCAの時代を生きる皆さんは、たくさんの情報を収集、分析したり、取捨選択したりする必要があります。不安に感じることはありません。これからも学び続けることで、一番納得できる決断が可能になります。様々な学びが皆さんを強くしてくれます。ここで言う強さとは、他者との関わりの中での強さというよりは、自ら選択・決断できる力のことです。

では、強さだけで世界はまわるのか。もちろんそれだけではありません。2019年12月4日、アフガニスタンで長年人道支援に取り組んできた医師の中村哲さんが銃撃され、亡くなりました。医師でありながら、医療だけでは救えない命があると干ばつに苦しむアフガニスタンに清潔な水を供給する井戸を掘ったり、自立支援のために灌漑事業に取り組んだりしました。私は30年近く前に中村さんの活動を知り、深く感銘を受けました。多くの方が、様々な信条を越えて中村医師の活動を支援・支持しました。誰もが中村さんのようになれるわけではありません。しかし、先に述べたような強さとともに、ほんの少し他者への優しさを持てれば世界も居心地の悪いものではなくなるのではないのでしょうか。強さと優しさについて自分事として考えてみてください。

『ギリギリでいつも生きてい…』 保坂 昂佑

今年、2年ぶりに（今の3年生が1年生の時以来）1年生の授業に携わり、時間の経過の早さを実感しています。（3年生の卒業式まで2か月ぐらいなのか…。）1年生の皆さん、入学した4月から12月を振り返ってみて、どんな学校生活を過ごしていますか？

昨年度は進路指導係に所属していた関係で、去年は難関セミナーに参加しました（今年は東高校で実施）。その際の話をもとにまとめると、「3年生になったら本気を出す」では、遅いです。今のうちに学習した部分は解けるようにしよう、とのことでした。言葉ではわかっている、気がついていてもかもしれませんが、実践していくことが大切です。

さて、私が推しているグループの曲の歌詞に「ギリギリでい…」から始まるものがあります。この言葉を検索にかけると、ポジティブに捉える投稿が今年も多く見受けられます。「推し」を認知してくれるのはありがたいのですが、やはり「余裕をもって！」って思ってしまう。



新年になるといっても、1年生の皆さんは、卒業するまでに逆転できる、より向上できる時間がまだ残されています。冬季休業を利用して、よりよい生活習慣を身につけていきましょう。